



お金と向き合う。

Money & You

銘柄選びのツボ

～株式・投資信託の選び方～

株式会社Money & You
代表取締役 頼藤太希

1

株式投資 銘柄選びのツボ

2

投資信託 銘柄選びのツボ



1

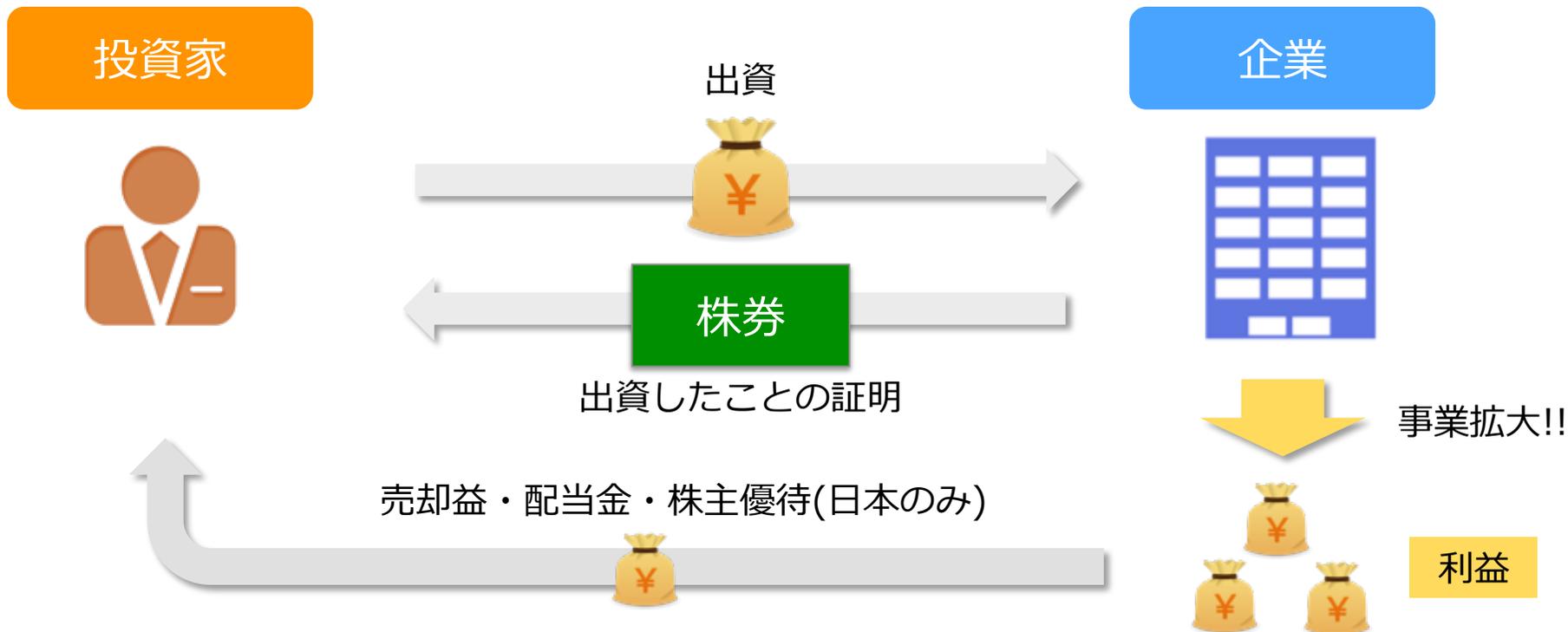
株式投資 銘柄選びのツボ

2

投資信託 銘柄選びのツボ



株式投資の仕組み



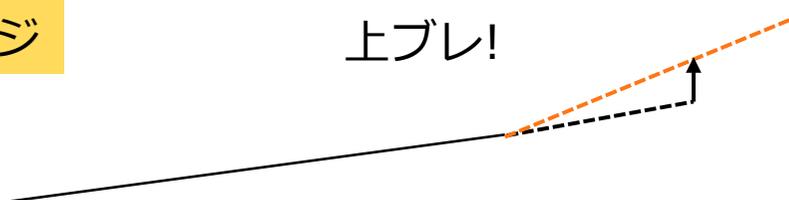
株式投資は、一言で言えば、
気に入った企業への金銭的な応援

1 「**消費者目線**」で商品やサービスを考えよう！

2 「**営業利益率**」の推移を見よう！本業収入が重要！

売上や利益のイメージ

上ブレ！



3 「**PER**」 「**PBR**」を見よう！

- PER = 株価 / 1株あたり利益 低いほど割安 (15倍が標準)
- PBR = 株価 / 1株あたり純資産 1倍より低いと割安



生活を快適で楽しいモノにしているか



10年後、20年後も必要であり続けているか



会社ならではの強みがあるか



成長・進化し続けるDNAがあるか



相場が常に正しい！自分が間違っている

- 相場のトレンドに逆らわず、間違ったらすぐに損切りする



出所：日本経済新聞スマートチャート

噂で買って事実で売る

- 2014年11月12日に衆議院解散総選挙の噂があり、2014年12月14日に投開票後、326議席獲得
衆議院解散総選挙の噂 ⇒ 日経平均株価上昇
投開票後、326議席獲得 ⇒ 日経平均株価下落

日経平均株価



出所：日本経済新聞スマートチャート

1

株式投資 銘柄選びのツボ

2

投資信託 銘柄選びのツボ

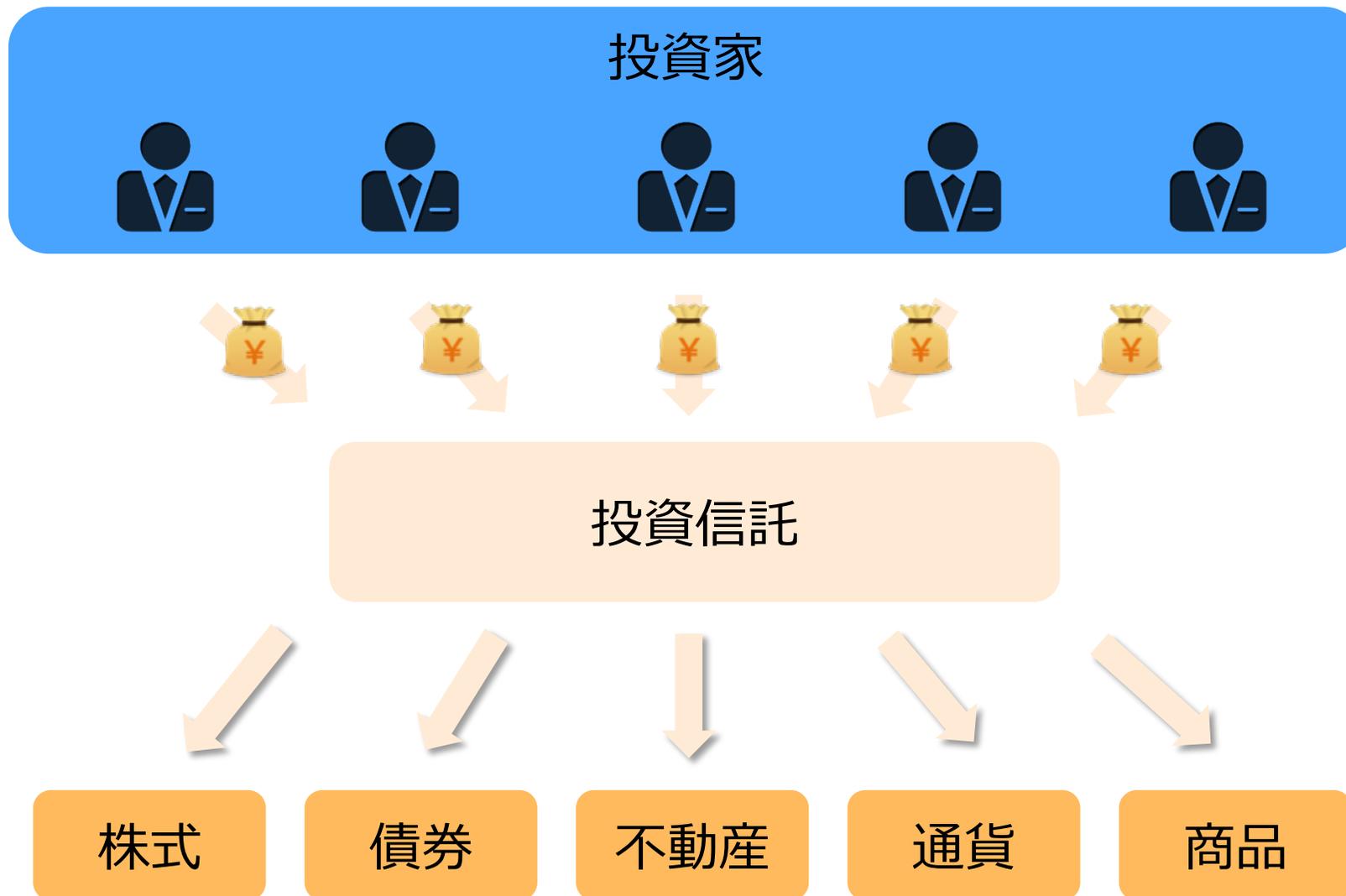


日本で販売されている投資信託は
全部で何本あるでしょう？

- (1) 約1000本
- (2) 約3000本
- (3) 約6000本
- (4) 約10000本



投資信託のしくみ



投資信託の分類① 地域と資産

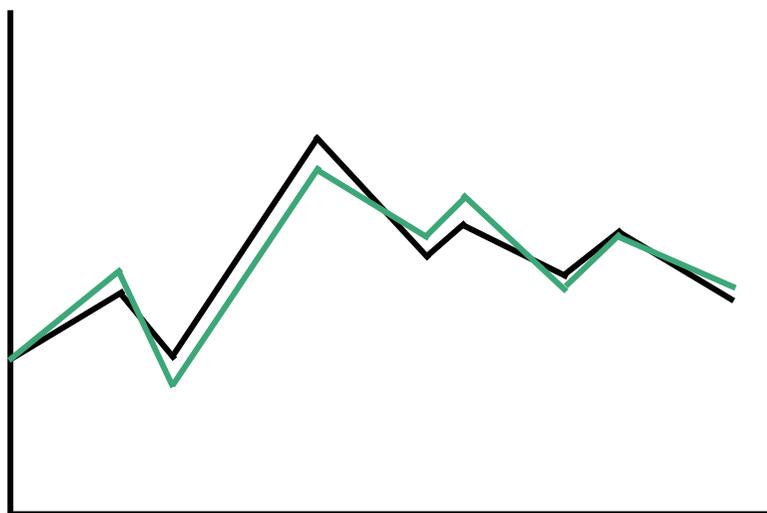
	株式	債券	不動産
国内	国内株式	国内債券	国内不動産
外国	外国株式 ・先進国 ・新興国	外国債券 ・先進国 ・新興国	外国不動産

バランス型 / ターゲットイヤー型

外貨建MMF 商品 等

インデックス型(パッシブ型)

ベンチマークに連動することを
目標に運用される投資信託

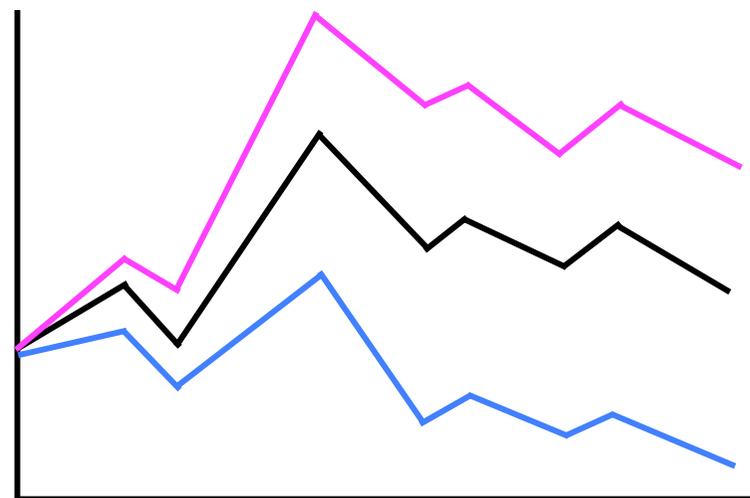


コスト

低い

アクティブ型

ベンチマークを上回ることを
目標に運用される投資信託



高い

● メリット

- (1) 100円、1000円と無理のない金額から始められる
- (2) 運用のプロに任せられる
- (3) 自動的に積み立てができる

● デメリット

- (1) 元本割れする可能性がある
- (2) どんな手数料が、いくらかかるか把握しないと損をすることに
- (3) 商品数が多いので選びにくい



- インデックスファンド、バランスファンド
 - ✔ 運用コスト（特に信託報酬）が低いか
 - ✔ 投資対象・地域は世界に分散されているか
 - ✔ 中長期的に運用実績が堅調か
 - ✔ 毎月分配型ではないもの
 - ✔ 純資産総額は着実に増加しているか



投資信託にかかる手数料

販売
手数料

投資信託を購入する時に
一時的にかかる手数料

かからない方が
お得！

信託報酬

投資信託を保有してい
る間ずっと払う手数料

手数料が低い方が
お得！

信託財産
留保額

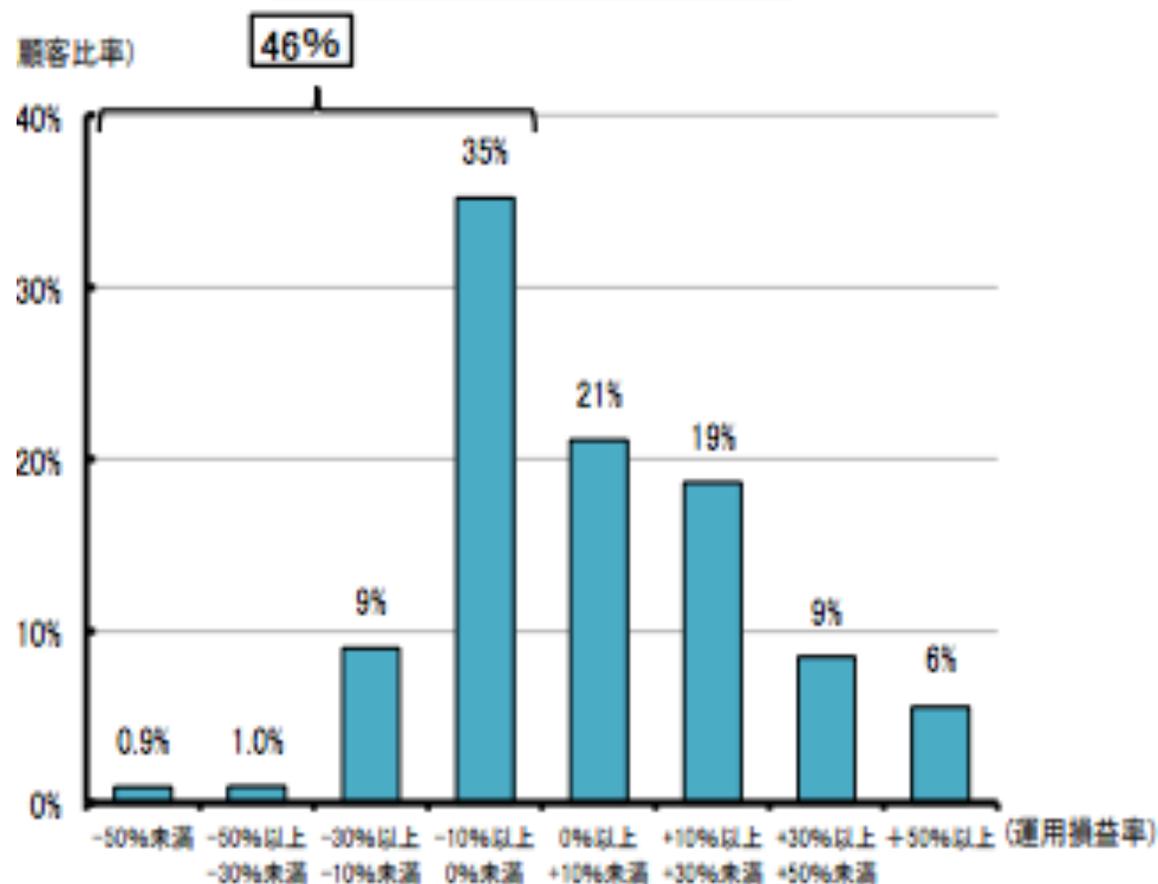
解約時の手数料

店舗型の銀行や証券会社で買うよりも
ネット証券・銀行、直販の方が手数料面で断然お得！

投信購入者の46%が損失を抱えている

- 金融庁「投信購入者の46%が損失を抱えている(2018年3月末時点)」と公表
大きな要因は、**手数料（信託報酬）が高い**商品であること

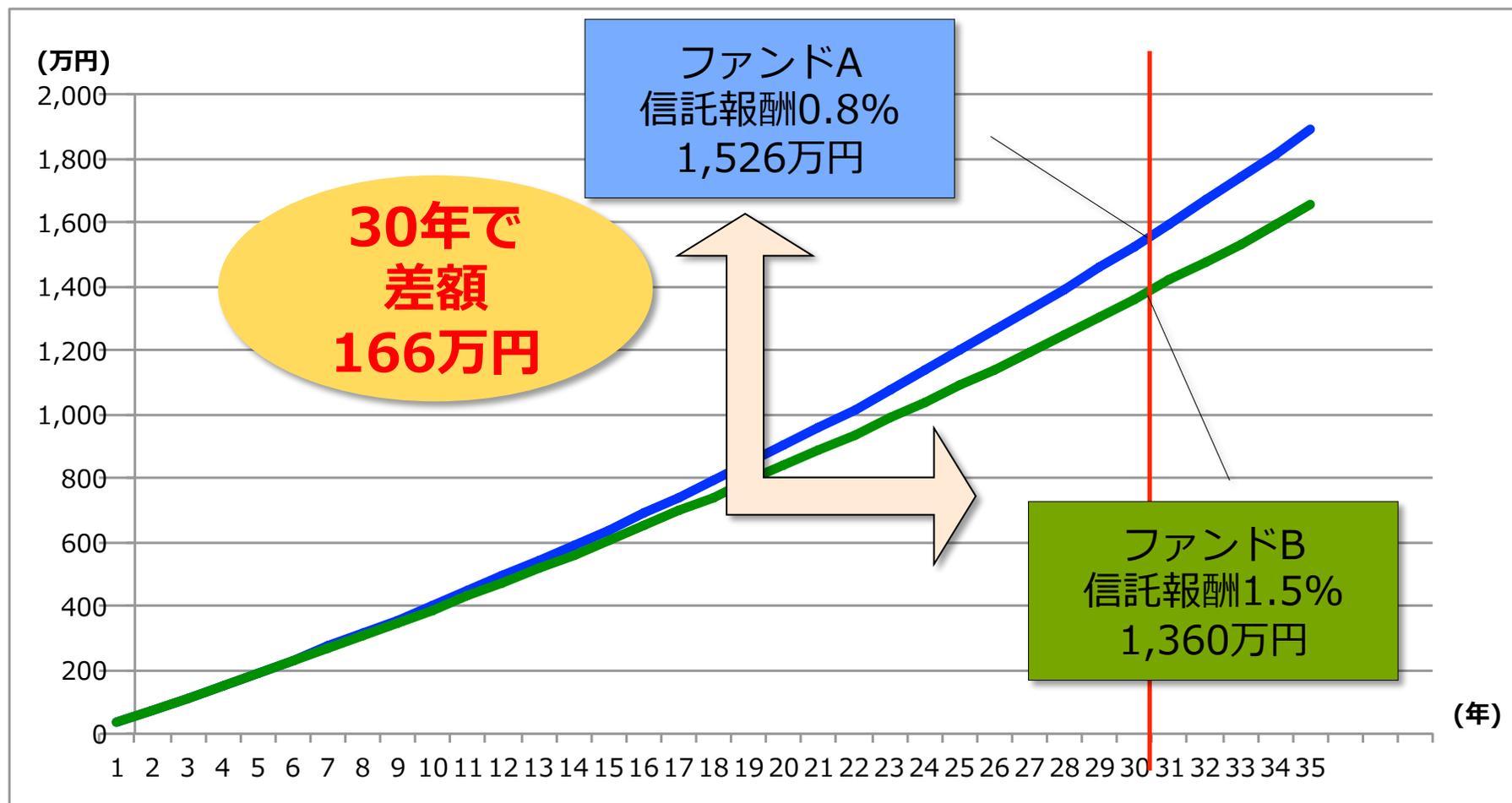
運用損益別顧客比率



出所：金融庁

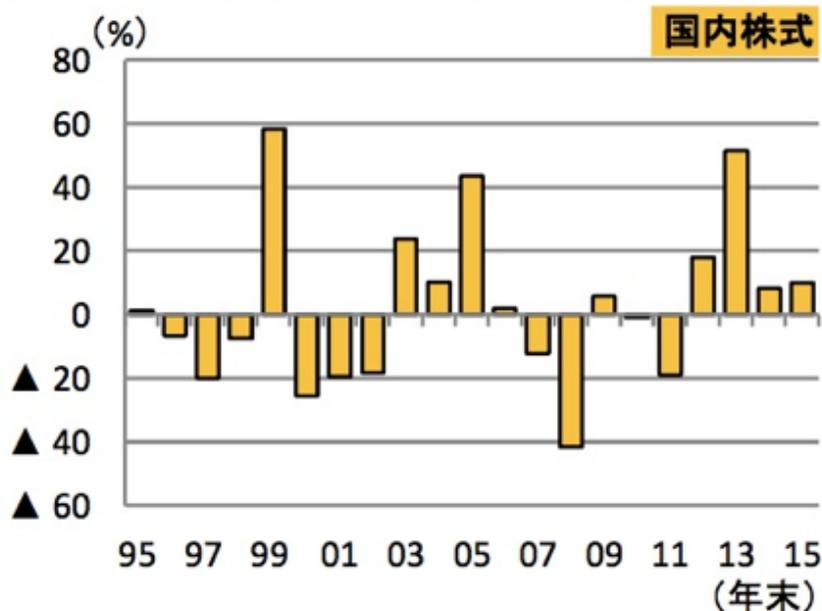
信託報酬は運用結果に大きく影響

- 運用利回り3%のファンドに毎月3万円の積み立てをした場合
※税金は考慮せず、複利計算



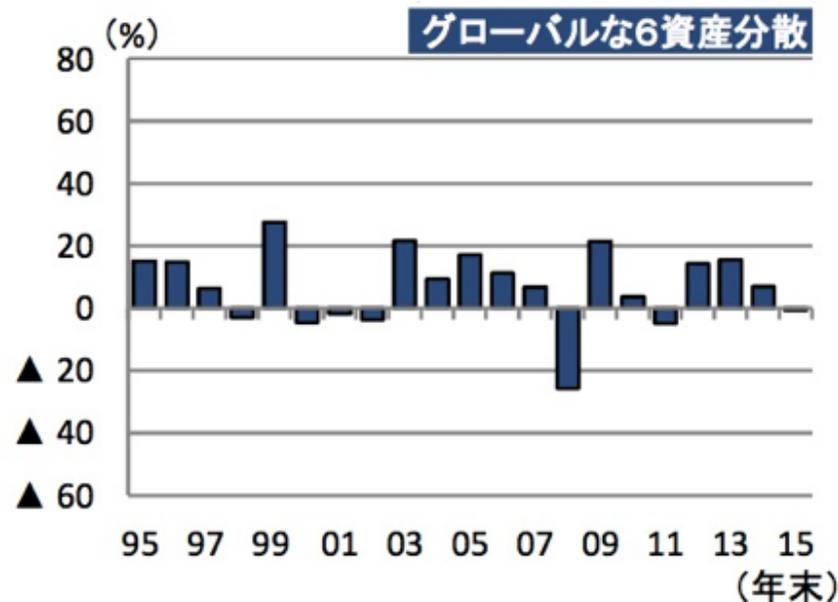
分散投資によってリターンが安定

国内の株式だけに投資



リターンのブレ幅が大きい！

国内/先進国/新興国の株式・債券に投資



マイナスになることが少ない！

出所：Bloomberg



分散投資によってリターンが
より安定してくる！

ズボラな方はバランス型がおすすめ

バランスファンド

= 様々な資産が入っているファンド

バランスファンド

国内株式・債券、先進国株式・債券
新興国株式・債券、国内・国際REIT



例えるなら…幕の内弁当!

● メリット

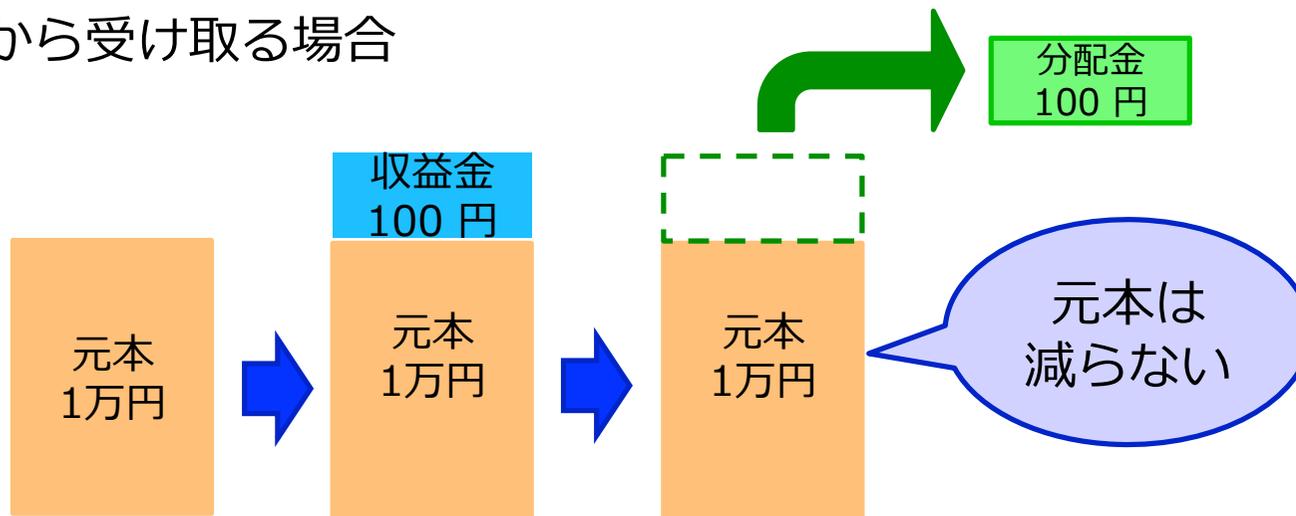
- **1本で分散投資**ができる
- **資産配分がお任せ**できる
- **自動的にリバランス**してくれる

● デメリット

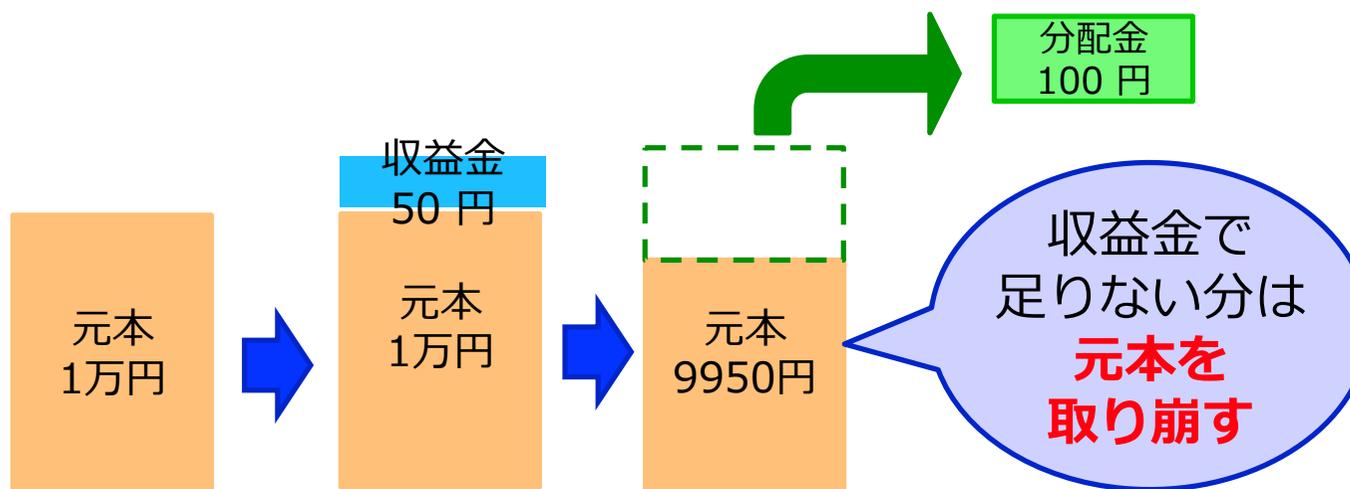
自由に資産配分を変更できないので、
自分にあった資産配分の商品を選ば
なければならない

毎月分配金は元本を取崩していることが多い

- 運用益から受け取る場合



- 運用益と元本を取り崩しを合わせて受け取る場合

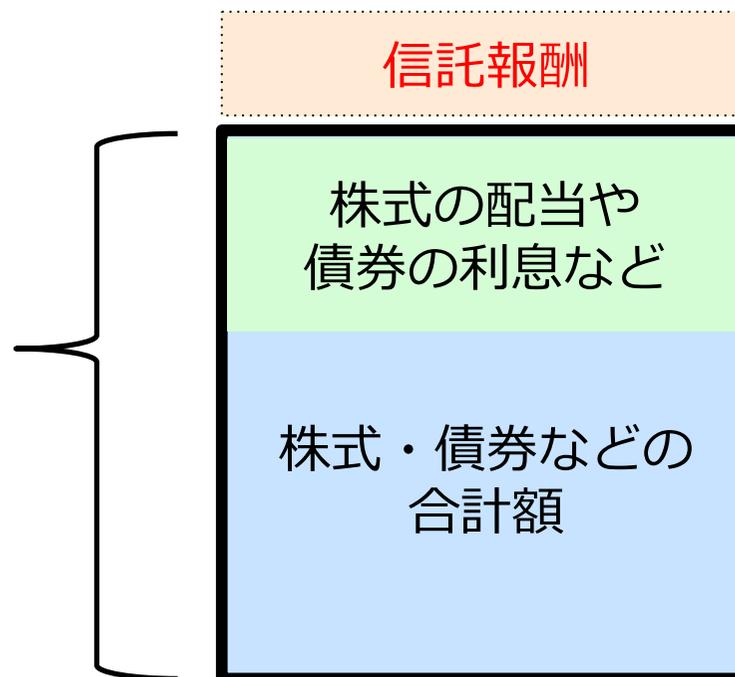


投資信託の「純資産総額」ってなに？

純資産総額

= 組み入れられている株式や債券など
資産の時価総額のこと
ファンドの規模、大きさを表す

純資産総額



純資産総額の見分け方

⇒ **30**億円以上あるのが望ましい！

純資産額が少ないと・・・

- (1) 分散投資が行いにくいので運用実績に影響があるリスク
- (2) 投資対象資産の売買手数料を抑えるボリュームディスカウントが効きにくいので信託報酬が増えるリスク
- (3) 繰上償還のリスク



- アクティブファンド
 - ✓ 運用コストを控除した運用実績は堅調か
 - ✓ 同ジャンルで運用効率が良いか
 - ✓ 毎月分配型ではないもの
 - ✓ 純資産総額は少なくないか
 - ✓ 顧客を大事にしている運用会社か



シャープレシオ

$$= \frac{\text{リターン} - \text{無リスク金利}^{\ast}}{\text{リスク}}$$

※国債の金利を利用するのが一般的。日本の場合、ほぼゼロ。



どちらのファンドが良い？

ファンドA

40のリスクをとって、
20のリターンを実現

ファンドB

15のリスクをとって、
10のリターンを実現

本資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性・確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。

本資料は、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。また、資料転売、再配布はご遠慮下さい。